

40 週 罪と刑罰

質問 83. 律法を破る罪が、みな同じく極悪非道でしょうか。

答え I ある罪は、それ自身で、また色々と恐ろしい罪に発展するので、神の目には、他の罪よりも、さらに重罪です。

質問 84. すべての罪が受けるべき、刑罰は何ですか。

答え I すべての罪は、この世でも、やがて来る世でも、神の怒りと呪いを受けます。

解説

より重い罪

罪はみな、極悪非道なのは事実です。しかし、すべての罪が同じではありません。罪の中には、より悪で重い罪があります。ある罪は、神の目から憎まれる罪がありますが、それらは、神に敵対する重い罪などです。神を侮ることと、偶像崇拜、不信仰、神の名を不敬に扱うことなどが、ここに該当されます。また、年齢と賜物と職務とに関連して重い罪があります（Ⅱサムエル 12:14, I 列王 11:9, I コリント 5:1）。神の属性、以下、礼拝と関連する罪は、より重い罪であり、神の民と教会に対して犯した罪も重罪です（ゼパニヤ 2:8, マタイ 18:6）。

そして、その罪の程度と性質からして重い罪があります。無駄な考えも罪ですが、冒涇する言葉は、さらに重罪です。旧約時代に犠牲の捧げ物をする時は、罪の重さに応じて捧げ物に差がありました。ある人は、自分も天国に入れず、入ろうとする人々をも入らせない、このような場合はより大罪です（マタイ 23:13）。すでに聖霊によって良心が目覚めてからも、それを無視して犯した罪だから、図々しい中で犯した罪は、より重罪です。

聖書では、ピラトは、キリストに罪がないことを知っていて、ユダヤ人たちが妬みによって、その方を殺そうとするのも知っていながら、彼らにイエスを引き渡しました。そして、自分はそれに対して責任がないと宣言します（ルカ 23:14）。ピラトは確かに、事実を知っていながらも罪を犯しました。これは、より重罪に該当されます。自分の義務を知っていながら、行わなかったことは、より重罪に該当されます。

また、誓願を立てて行わないことも、より重罪に該当されます。他の人の罪を指摘しながら、本人も同じ罪を犯している場合も重罪です。なぜなら、罪を明白に認識しながらも、罪を犯したからです。

重ねて犯す罪は、罪を増加させるだけでなく、より悪へと発展させて行くので、罪を続けて犯すのも重罪です。聖なる神を憎むこと、不敬な言葉と行為をするのも重罪です（イザヤ 30:11）。神の恵みをより大きく受けていながら感謝しないことも、重い罪に該当されます。神の慈悲と祝福を軽蔑する行為だからです。イスラエル民は、神の特別な愛と恵みを受けながら、感謝もせず、結局、神を軽くあしらったことでした。また、信仰的な姿をしながら罪を犯すのは、神と人を欺く罪なので重罪です。悪い心を抱きながら犯す罪も重い罪です。

従って、すべての罪を同じく見てはならず、より深刻で、より重い罪があることを知らなければなりません。

赦されない罪

聖霊を冒瀆する罪の場合は、赦されない罪です。これは意図的で、キリストの血を汚れたものと見ることです。そして、背教の罪も赦されません。背教とは、神の恵みの手段の下にしながら、ある時期は、恵みある姿をしていたのに、信仰告白を捨て、キリストから離れることです。デマスの場合、使徒パウロとルカと同役をしましたが、結局、世に行ってしまいました。彼は真理を知っていたが、意図的に真理を捨て、世に行ってしまった者です。墮落と背教は最も重罪として、赦しがありません。それゆえ、私たちはこのように、罪に対して、一層注意しなければなりません。

神の刑罰

イエスさまは、実のないイチジクの木を呪って枯らしてしまいました（マタイ 21:19）。そして、山羊に該当される者たちに、「呪われた者どもよ、わたしを離れて、悪魔とその使たちとのために用意されている永遠の火に入ってしまった。」

（マタイ 25:41）と告げながら呪いました。神は、呪いと呪いの実行である怒りを罪人たちに注ぎます。神の怒りは、神の御顔を彼らから背けさせることです。まるで、アブシャロムが王の顔を見ることができず、惨めな状態に至ったように、神の恵みに対してふさがれてしまうことです。神の怒りは、抵抗することができません。神の怒りは恐ろしく怖いのです。

「怒り」という言葉は、「熱い」という意味を含んでいます。神の怒りは火と同じで、降られると避けられません。神の怒りは、吠えたける獅子のように怖いものです（箴 19:12）。従って、神の怒りが靈魂に注がれると、その靈魂は苦痛の中にいることになります。この地において、罪に対する神の怒りは明確です（ガラテヤ 3:10）。更に、地獄での神の怒りは永遠で、途中で休むこともなく、終わ

りもなく持続することです。目からの涙すらも、熱さで乾いてないところです。

神の怒りは、神の正しさを示すこととして、どこの誰でも、抗議し断ることはできません。このような怒りは、罪に対する対価です。従って、いくら小さな罪であっても犯さないように霊的に注意を払い、罪と戦わなければなりません。

神の正しさ

神が、罪人を罪に定めることは、極めて正しい行為です。そして、罪人が罪に定められるのも、当たり前で、当然のことです。神が罪人たちの罪に対して、怒りを注ぐのは、その間、与えてくださった恵みを軽くあしらい、悔い改めの機会を乱用した罪人たちには、極めて相応しいことです。それによって、罪人たちの愚かさがそのまま表わされます。神の御怒りを避ける道は、私たち自身を省みながら、罪を犯さないように努力することです。